

鹿角市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（素案） パブリック・コメントの結果公表

パブリック・コメントにより提出された意見等の概要及び当該意見等に対する市の考え方について、次のとおり公表します。

意見等募集の集計結果			
意見等募集期間	令和5年1月13日～令和5年2月13日		
意見等の件数（提出者数）	34件（8名）		
意見等への対応の分類	分類	分類内容	件数
	修正	案を修正するもの	5件
	参考	今後の参考とするもの	29件

No.	意見等の概要	意見等に対する対応の分類	意見等に対する市の考え方や対応等
P29～49 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組（1）～（7）			
1	事業計画を見ましたが、抽象的な事例ではなく、鹿角市として市民に協力してほしいことの具体的な例を教えてください。	修正	（1）～（7）の各対策に【各主体に期待する取り組み】の項目を設け、市民・事業者から協力いただきたい内容について記載しました。また、「（8）施策・取組のまとめ」を設け、「対策内容」や「削減量目標」、「各主体に期待する取り組み」をわかりやすいように一覧にした表を掲載しました。 さらに、計画の推進段階において具体的な例を広報していきます。
P32 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組（2）自家消費型再エネ電源の導入			
2	太陽光発電システムを搭載している家屋の方は売買による収入も期待できなくなっているため蓄電池をフル活用し日中蓄えた電気を夜間に使用することで電気代を抑えることができるのではないかと。また、蓄電池購入及びそれに伴う工事費用の助成で普及を促進してはどうか。	修正	太陽光発電による電気を無駄なく活用するには蓄電池の利用が重要であり、自家消費型太陽光発電設備と合わせて蓄電池の導入も支援することとしていますので、【施策とスケジュール】の表だけでなく、【対策の内容】の記述にもその旨追記します。

3	<p>家庭用太陽光発電導入について、電力の地産地消が出来る環境の鹿角市だからこそ、一步踏み込んだソーラーパネル導入には賛成です。リスクもあると思いますが、補助金で購入しやすくなるのであればやってみたくと思いました。</p> <p>とは言え、日中発電して家に人が居ない時間帯の発電になる為、FIT で売電していないのであれば蓄電池の導入も併せて検討しないとイケないのかなと思いました（負担増える）。</p>	修正	同上
P58 6. 計画の推進体制、進行管理 6-2. 進行管理			
4	2030 年度まで、毎年度進捗を可視化してほしい。(計画と実際値)	修正	計画の進捗については、年1回公表することとしており、対策によりどれだけのCO2排出量が削減されたか、また目標となる7.3万t-CO2との比較などを示しながら、市民への周知を図る予定です。
5	<p>2030年までの8年間とあり、かなり踏み込んだ設定となっていますが、見直しが中間の2026年に想定されていますが、もっと短い期間での見直しや確認をして欲しいです。市民に細かくデータを示すことで目標に近づける行動をとってもらう事が重要になると考えます。</p> <p>1年のまとめでもあとどのくらい削減が必要なのか広報などの媒体を使用し市民に身近な問題として意識付けしてはいかがですか。</p>	修正	<p>その際のイメージを持っていただきやすくするため、「5-3. 施策・取組(8) 施策・取組のまとめ」に「部門別における削減量目標」の表を再掲するとともに、「5-4 対策の削減効果の推計方法」の項を追加しました。</p>

P29 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組 (1) 再エネ電気メニューへの切替			
6	<p>かづのパワーの経営理念の明確化を。例えば、利益を子育て・教育への活用をセットにすることで、ストーリーができて、より市民が協力する意識も高まりやすいと思う。</p>	参考	<p>かづのパワーの経営理念は、地域再エネ電気の供給による電力資金の域内循環と脱炭素の推進であり、多くの市民の協力が得られるよう、市の施策や地域課題と絡めた地域貢献の方法を、市も連携しながら検討していきます。</p>
7	<p>かづのパワーによる市内各家庭の卒 FIT 電源の買い取りなど積極的な地産地消に取り組んでほしい。</p>	参考	<p>様々な方法でかづのパワーが地域に供給する地域向け電源の導入を進めていくこととしており、市内家庭の卒 FIT 電源についても想定しています。</p>
8	<p>かづのパワーから電気を購入している施設は、「この電気は地域の発電所の電気です」というような自然エネルギーを使用していますとわかる張り紙を目に付くところに貼って市民に認知してもらって意識を高める工夫をする。</p>	参考	<p>地産の再エネを利用していることへの市民の認知及び意識醸成を促進する方法の一つとして参考といたします。</p>
9	<p>私が知り得ている『かづのパワー』は電気を外部から購入し市内の公共施設に利用するといった内容と受け止めておりますが、その必要電力量に対し、購入先のほとんどが、価格が一定でない電力市場からのものであることが、どうも腑に落ちません。なぜなら、鹿角は発電できる稀有な地であるからです。</p> <p>地元で発電ができるのであれば、例えば地元の発電事業者から新規発電所を作ってもらい、市が地元価格で融通・利用させていただいた方が、余程経費の削減と安定した送電を提供できると思います。</p> <p>経費の削減とは需要に対して地域の発電事業者から直接買電（ここは市長と職員各位の頑張り次第です）することで、不安定な電気の値段が落ち着く、と考えています。</p>	参考	<p>かづのパワーは、その供給する電気の大部分を地域の発電所（FIT 制度適用）から購入し供給しています。しかし、FIT 電気は制度上市場価格となるため、市場連動のリスクを回避する方法の一つとして他地域のバルancingグループサービスを活用しているものです。</p> <p>地域の再エネ電気を FIT 制度によらず固定価格で購入し供給することができれば、地域の電気料金の安定化が図られることから、実行計画の対策1においては、かづのパワー向けの電源の導入促進を図ることとしています。</p>
10	<p>専門の職員の育成は重要なことと考えています。電気を使用する複数の施設の環境や状況を把握するためにも常に</p>	参考	<p>脱炭素を進めるにあたり専門人材やノウハウは必要になると捉えており、外部人材の採用など令和5年度から体制強化を進めることとしてい</p>

	<p>使用量、送電量、経費を監視する必要があるからです。必要があれば施設の改善、改良も必要になると思われるからです</p>		<p>ます。</p>
11	<p>他に例のない事業に着眼着手した勇気と熱意は大変に誇らしく賛美に値します。</p> <p>しかし、ウクライナ侵攻を機に物価は高騰し市民生活をひっ迫させています。すでに電気料金の値上げも宣言されておりあります。</p> <p>優先すべきことは、不安定材料であるかづのパワーを見直し、市の財政を健全化させることではないでしょうか。</p>	<p>参考</p>	<p>電気料金価格の安定化や電力資金の域内循環、地域の脱炭素を進めるためには、地域の再エネ発電所から送電網を通じて各需要施設に電気を供給する電気小売事業者の存在が必要不可欠であり、かづのパワーがその役割を果たすことができるよう、固定価格の再エネ電気を確保し経営の安定化に努めているところです。</p>
<p>P32 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組(2) 自家消費型再エネ電源の導入</p>			
12	<p>太陽光発電 10MW の発電をどう作っていくのか</p>	<p>参考</p>	<p>公共施設への導入を図るほか、民間の導入には補助金による支援を行いながら進めていきます。</p> <p>また、導入に際しては初期費用の少ない PPA モデルによる導入を進め、支援がなくとも導入が進む体制を構築していきます。</p>
13	<p>鹿角市の管理のもとで休耕田畑を買い上げた上でメガソーラー事業をしてみたい。</p> <p>休耕田畑に関わらず出来そうな場所であれば、どんな場所でも良いと思う。</p>	<p>参考</p>	<p>休耕田畑を市が買い上げることは想定していませんが、所有者等による休耕田畑等を活用した発電事業は遊休地利用の観点からも促進していく考えです。</p>
14	<p>自家消費型電源及び EV について、市の公共施設や公用車からということについては積極的に取り組む姿勢がとても素晴らしいと思います。しかしながら、昨今の物価上昇のあおりも受けて一般家庭には現実味のない事柄のように感じます。鹿角市では高齢者世帯が多いことから積極的に取り入れると思えません。</p> <p>まずは各自治会の会館に太陽光発電を積極的に取り入れるように勧め、自治会費の削減や自治会員の EV 車の電源供</p>	<p>参考</p>	<p>高齢者世帯でどのように自家消費型太陽光発電の導入を進められるかについては課題の一つと捉えております。</p> <p>自治会単位での再エネ設備導入等については、自治会内での合意や設備維持管理の責任主体の設定等、課題もありますが、メリットも大きいと思いますので、方法の一つとして検討していきます。</p>

	給、緊急時の為の蓄電などとして利活用してもらうのはいかがか。		
P35 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組(3) EVへの切替			
14 再 掲	<p>自家消費型電源及びEVについて、市の公共施設や公用車からということについては積極的に取り組む姿勢がとても素晴らしいと思います。しかしながら、昨今の物価上昇のあおりも受けて一般家庭には現実味のない事柄のように感じます。鹿角市では高齢者世帯が多いことから積極的に取り入れると思えません。</p> <p>まずは各自治会の会館に太陽光発電を積極的に取り入れるように勧め、自治会費の削減や自治会員のEV車の電源供給、緊急時の為の蓄電などとして利活用してもらうのはいかがか。</p>	参考	<p>高齢者世帯でどのようにEVの導入を進められるかについては課題の一つと捉えております。</p> <p>自治会単位での再エネ設備導入等については、自治会内での合意や設備維持管理の責任主体の設定等、課題もありますが、メリットも大きいと思いますので、方法の一つとして検討していきます。</p>
15	<p>移動手段として、鹿角の場合、公共交通機関の積極的な使用を呼び掛けても一定のエリアを除き効果は薄いと思われる。</p> <p>自家用車が最も主となるため、EV化への第一歩としては自家用車から考えていく必要があると思う。</p> <p>または商用車、営業車などの乗用車ベースのものに対しても自家用車と同時に考えてよいと思う。</p> <p>燃料が軽油の車両に関しては更なるクリーンディーゼル化が必要になると思う。</p>	参考	<p>実行計画では、2030年までに5,000台をEVに切り替えることを目標に掲げていますが、その実現に必要な充電インフラの整備や買い替え支援策については令和6年度末までに「EVマスタープラン」を策定しますので、ご提言は、その中で参考にいたします。</p>
16	<p>鹿角市内で急速充電できる場所がどこで、何基設置されているかが明確ではない。市民は勿論、観光客への周知が必要ではないか(マップの作製など)</p> <p>また、今後EV化が進んだ場合を想定して充電できる場所や台数を増やす必要がある。</p>	参考	

17	<p>一般家庭での充電について、専用コンセントの設置などに費用が掛かるなど(10万円前後)、EV車を購入しても家で充電できないではどうにもならない。</p> <p>新築住宅をこれから建てる方は将来を考慮し、初めから充電用のコンセントを設置し上限を決め助成することや、すでに持ち家がある方は充電用のコンセント設置のタイミングで助成することについて、市での対応を希望する。</p>	参考	
P41 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組(5) 建物の熱対策			
18	<p>ゴミ焼却の熱源(エネルギー)を電気にできないか。火力発電に至るほどの熱エネルギーとは異なるのかもしれないが、何らかの方法で電気エネルギーに変換できないか?</p>	参考	<p>ゴミ焼却場の熱利用については、発電用途とするには熱量が不足することから、敷地内の融雪などに活用しています。</p> <p>頂いたご意見を参考としながら、継続して利活用方法を検討してまいります。</p>
19	<p>ゴミ焼却熱の活用はかなり前から出ていますが、温水プールや温室栽培には焼却窯の性能が低いため現実的ではないと聞きました。しかしながら、焼却熱は今後も活用できるエネルギーだと考えます。</p> <p>焼却場横の広い敷地に屋根付きの屋内スポーツ施設を作り、温水シャワーや冬場の暖房、道路の融雪などに利用するのはいかがですか。冬季間の運動不足や部活動の練習場所不足を解消できると考えます。</p>	参考	
P44 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組(6) 適切な森林管理			
20	<p>鹿角は大半が森林だが、整備・管理は行き届いているか。個人所有の山林に関して難しいところが多いと思うが、そのような場所ほど整備や管理が必要なのではないか。</p> <p>木材用としても使い物にならず、荒れていく一方のところが多いのではと思う。</p> <p>樹木や植物が効果的に二酸化炭素を吸収し、環境への良い影響が及ぶように誰かが手を入れなければならないので</p>	参考	<p>手入れの行き届かない私有林の管理を行うために、令和元年度に森林経営管理制度が施行され、本市でも国のガイドラインに基づいて、この制度に基づいた事業を実施しており、徐々に集約面積を増やしています。今後も、国や県との連携を図りながら、森林の適正な管理が行われるよう森林経営管理制度による森林の集約化、施業を行っていきます。</p> <p>また、市有林においては森林認証を取得し市有林認証材のブランド化を目指していきます。</p>

	はないか。		国有林については、森林の多様な機能を確保する管理経営が図られています。
21	<p>ここ数年、山肌が見えるような伐採があちらこちらで見られています。素人目で見ると適切な伐採が行われているのか疑問に感じます。昨年大雨で山肌崩れ土が見えている場所も見られます。伐採には許可が必要だとは思いますが、現場の確認はされていますか？</p> <p>状態に応じて災害マップとの連携が必要ではないでしょうか。崩れやすい場所の追加等があれば市民の安心にもつながります。</p>	参考	<p>森林の伐採には届け出が必要であり、届け出があったものは全て伐採後の状況を確認しています。また、皆伐後の再生林に対する支援も行っていますので、今後も再生林率の向上に努めてまいります。</p> <p>土砂災害が発生する恐れがある個所については、すでに防災マップに掲載しているほか、土砂崩れ等の発生個所については、県営治山事業により対応しています。</p>
22	<p>どの分野でも人材不足は深刻な問題ですが、この先のCO2削減目標につながる森林管理の人材を確保することは難しいように感じます。</p> <p>植林であれば、学校の自然体験学習と関連付けることや民間のツアーなどと連携してイベントで人材不足を賄う方法はいかがでしょうか。また、山菜取りやキノコ採りに毎年多くの方が山に入りますので、その方たちにも植林のお手伝いをお願いするというのはいかがか。</p>	参考	<p>林業分野の担い手の確保のため、市では、新規就業者に対する支援を行っています。イベントと連携した人材確保の方向性については、ご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>なお、自然体験教室やシイタケの植菌体験、木製玩具の贈呈等により、木や森林の良さを伝え、林業分野への興味を喚起し、森林を大切にする風土の醸成を目指しています。</p>
P47 5. 地球温暖化対策の推進 5-3. 施策・取組(7) その他脱炭素行動の促進			
23	<p>これからも徒歩の通学頑張ります。</p> <p>周りには自家用車で送り迎えをしてもらっている人が沢山います。それでCO2を排出していると思います。</p>	参考	<p>脱炭素の実現には、一人ひとりができることを実践していくことが重要となります。無理なくできることを実践し協力しながら、ゼロカーボンの実現に協力いただければと思います。</p>
24	<p>「脱炭素行動」について報告することで、ポイント還元特典のようにすると、意識の向上につながらないか。(節水、節電など)</p>	参考	<p>市民のCO2排出量削減状況の把握と市民の関心を高めていくことを狙いとして、市民の方々から自身が行った脱炭素行動についての情報提供を求める仕組みを検討しています。</p> <p>また、ポイント付与等インセンティブを設けることについては、情報提供を促す方法の一つとして参考といたします。</p>
25	<p>一般的に言われている「省エネ」、「節水」に積極的に取り</p>	参考	

	<p>組むことについて、分かっているにもかかわらず実行できないし、便利で楽な方になびきがちである。そういう方々にどのように呼びかけていくかが課題である。</p> <p>また個々の問題で済ませないようにしていく必要がある。何か特典があれば人は動くのではないか。</p>		
26	<p>政策をわかりやすく伝えるためにイラストなどを活用して欲しいです。文章中にある数字はイメージにつながりにくいです。市民が興味をもって参加しやすくなるようにわかりやすい方法で伝えて欲しいです。</p> <p>政策の概要をわかりやすくまとめたものをコモッセなどに貼り出し、市民がパブリックコメントを書く機会を作ってはいかがですか。今回、パブコメを書く会を行い、参加された方の反応はとても良かったです。学校などでも地域活動に取り入れて欲しいと思いました。</p>	参考	市民の関心を高め協力を得ながら進めていくことが重要ですので、ご意見を参考にしながら政策を周知していきます。
27	<p>今後、どんな事案でも、もっと頻度を上げて市民に情報公開してほしい。私たち市民にできることが、具体的に見えることでより協力的になると思う。</p>	参考	
28	<p>地元の資源を地元で消費することについては、意外と知らない人が多くもっとアピールして欲しいです。</p>	参考	地域の資源を活用し地域活性化を図ることがエネルギー施策の基本姿勢ですので、普及啓発講座等を通じて本市の豊富な再エネポテンシャルの周知を図っていきます。
29	<p>「カーボンニュートラル」という言葉は、市民にどのくらい認知されているのか、期間を決めて意識調査はしますか。</p>	参考	<p>直接の認知度は把握していませんが、令和4年度市民アンケートでは、「鹿角市 2030 ゼロ・カーボンシティ宣言」を知っている割合は 32.3%と全体の約3分の1でした。2030年までにカーボンニュートラルを達成するためには、全市を挙げた取り組みが重要であり、これから更なる意識醸成を進めていきます。</p> <p>なお、中間年での計画の見直しの前に意識調査を行うことを検討します。</p>

30	リサイクルの観点から、脱炭素を関連付けている事業があったら教えてください。	参考	リサイクルは「対策7 その他脱炭素行動の促進」に定めています。具体的には古着・古布回収、制服やスキー用品のリユースなど、リサイクルイベントの実施を促進していくこととしています。
P55 5. 地球温暖化対策の推進 5-6. 2030年までに目指す地域脱炭素の姿			
31	2030年以降はどうなっているのでしょうか。2030はあくまで通過点だと思います。	参考	本計画は2030年までを計画期間としていることから、2030年以降の取り組みについては記載していませんが、「2030年までに目指す地域脱炭素の姿」として、地域の安定したエネルギーと、地域エネルギーを活用するインフラを整え、グリーン経済が活性化し、暮らしやすく将来性のある町を作り、仕事と人を呼び込む姿を展望しています。
32	自然エネルギーを市民が利用するメリットを教えてください。また、その結果どのように地域に影響が出ますか。	参考	地域の再エネを利用することで、脱炭素のほか、エネルギーの価格安定化、光熱費の削減、災害時のエネルギー使用ができます。 また、エネルギー資金の削減・循環により市内産業の経済性が高まるほか、市の魅力向上につながり、企業・移住者の呼び込みやグリーン経済による地域の活性化が図られます。
ペロブスカイト太陽電池について			
33	2030年のゼロ・カーボンシティを目指す本市にとって、「ペロブスカイト太陽電池」をあらゆる角度から検討し、鹿角市のゼロ・カーボンシティ実現に活かして頂きたい。	参考	ペロブスカイト太陽電池については現在実証中の技術であることから本計画において記載をしていませんが、今後の技術革新を注視しながら検討を進めていきます。
34	現在、ペロブスカイト太陽電池は無数の研究機関や企業によって研究開発が進んでいますが、鹿角市は最速でゼロカーボン達成を目指す市として、それらのいくつかと連携・提携し、鹿角市に研究場所を誘致することも可能ではないでしょうか。 また統合によって廃校になった学校の校舎を無料安価で提供するのは難しくないのではないかと。	参考	ペロブスカイト太陽電池に限らず、本市のポテンシャルを活かした実証フィールドの提供による研究機関や企業に誘致については、事案に応じ取り組みを進めることとしています。 なお、誘致にあたって空き公共施設を活用することは想定しています。

※意見等の概要は、市が簡略に整理したものです。